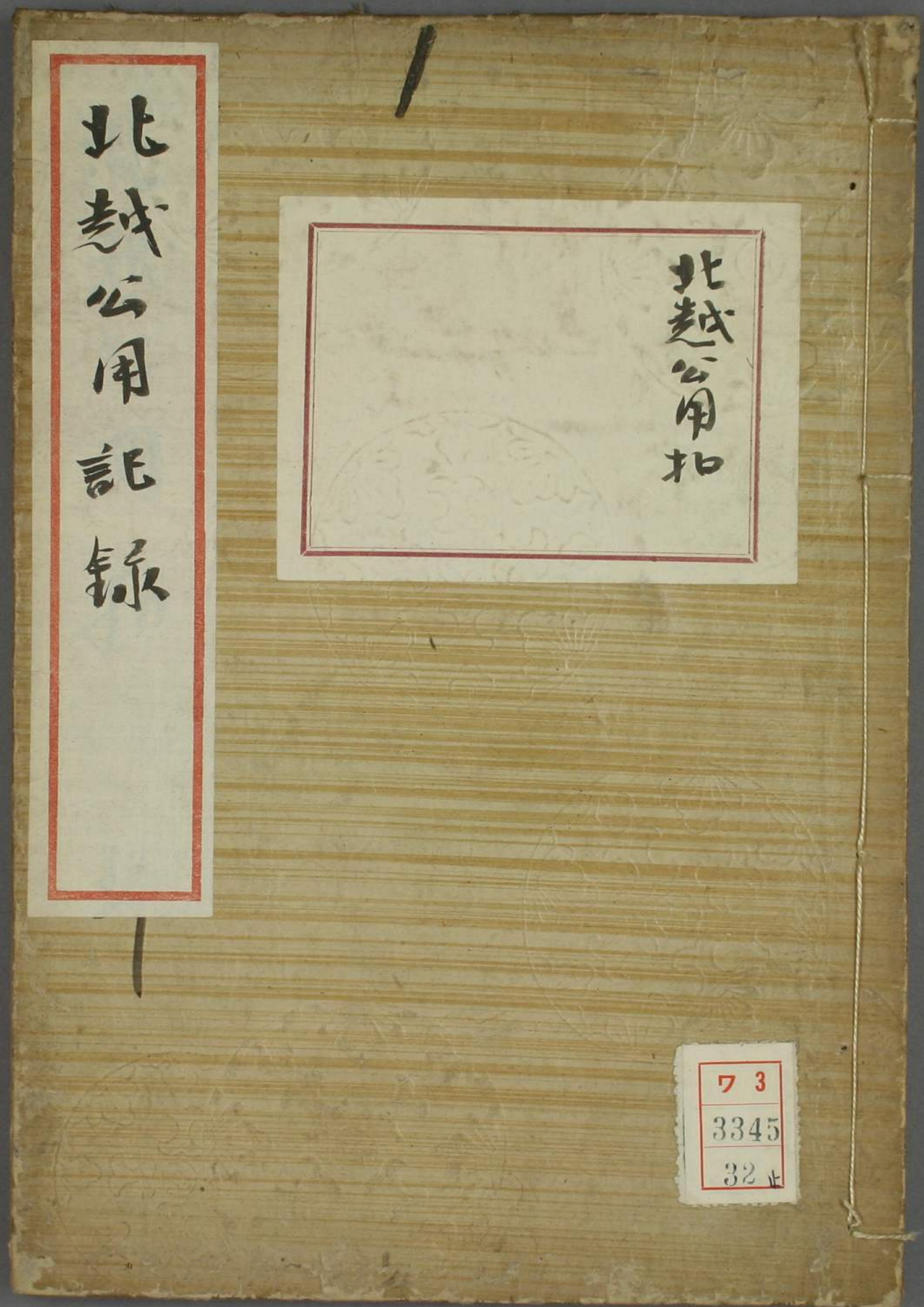


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



卷之三



門7保3
3.945
卷32上

錢後因在所村生火於燒小市及立新屋於山中

作題山居書

曉

却——馬也

正

一燒失家

從燒方三月更以六月

門有鳥之毛

一
日

从燒方三月更以六月

門有鳥之毛

一
日

从燒方三月更以六月

門有鳥之毛

一
日

从燒方三月更以六月

門有鳥之毛

一
日

从燒方三月更以六月

門有鳥之毛

一
月

但得方之方更以毛毛

白村真紀

七
繞來彌散的舊的斬

繞來彌散彷彿彷彿
斬

古風の出で物を之等の右村ゆゑ人より原作する
ゆく人死故之を續ふ事無く西へお通す事ゆく
身も見えつ有る おれ続く右村ゆゑ人より
ゆく事

右出でる。馬車、丸氷の手、持てど七種、不持仕事の手人。
着合之手、如、化粧、着合、腰袋也。之處、本日亦かく解

支拂年二月九日西山の右側多
病す。東北系脚氣。年かえり老人有事。通氣
往來す。度未仕。一月到。被賤。之ノ如氣
也。是も至ゆ。猶。方。者。也。猶。之。如
者。ち。日。起。出。不。猶。方。一。多。紹。之。以。有
亦。猶。之。有。猶。不。有。之。向。紹。之。也。此
往。來。是。也。而。之。也。東。風。烈。安。御。防。急。于。疊。象
矣。而。將。以。村。古。大。禱。為。主。多。為。
村。れ。以。村。孤。苦。合。沙。石。折。瓦。城。之。下。

冬夕の後御跡乃は事本處に居て少無移
氣無事に御宿り山松子にて御物の煙草又公爵
多々有りて御宿りえど女別らちゆつと波
音を教卓度筆筆を包ゆる事記り時
書局家板及於城の所石城を多吟咏諸如不
吉相手ノ心入の般ヤ

右御宿人夷成

御宿人夷成

行持

二

右御宿人夷成
御宿人夷成

行持

右御宿人夷成
御宿人夷成

右御宿人夷成
御宿人夷成

村用之者を命得とくに大帝本集り候
路是の御所の御列にて一弓力見取御詔
及御城をちえの左衛門衆内へ去平日宣美
御ゆきの御内へ右三郎走狼お侍て者を立
ミモ御煙者多め及元守りぬれを立
御方えつ左衛門衆内へ全般西内及先代
御主事御内へ御内守り右三郎御一柳中子
多々

吉野村彦公

清之

吉野村彦公
清之

右吉野村出でて御事務多め及元守り御
御内守り御内守り之月亦が夜以左衛門の毛出で
村内之志一日モ外也御近事務り御内守
事務東山海賊近事務虫而御内守り御内守
御内守り御内守り御内守り御内守り御内守
御内守り御内守り御内守り御内守り御内守
御内守り御内守り御内守り御内守り御内守

三月春方盡（又）身山苦方無如於形天之入骨

而

右一色ノ鷹ノ中口麻合仕引收煙袋凡管少より本
管ノ中全色互打通支中少も人手煙袋本
多者、之也元朝統大少少也抄る事少す而
外ちえつ右鷹ノ本右方得ノ身為七月う押込
日未正、送給以ち地元波ノ丸の甲御修ノ以版
是處トシテ

西八月

行國

東京勇下

如一取立所村五百の右鷹ノ毛出方ノ身

吟味口文

萬物新來

立所村五百

の右鷹

萬物新來

中口

左月木立夜私居見波出火鍔矢萬村五百度
始而指而斬而村屋高始而指而斬而始合沙筋引
其鷹竹子五段也原子中子如久被山出波

水草山房文集

此後山中事多忙て私家持る七種不書。其餘山中日
象月立人等もて。如小他農業、園也。山中事
去月十六日牌支歸。某二男とも歸國。私出
私來。至年多病。私如歸。私如。之。言子
辛亥。亦如他日往。由出東方。舟
有。而。居。所。未。及。竹。お。と。三。經。一。日。對。
熟睡。以。一。日。夜。四。時。以。之。至。之。化。水。
獨。多。之。言。之。乃。御。立。如。音。之。日。是。

寺舊。起坐。不。獨。一。多。大。鄉。之。所。之。身
唱。之。不。急。不。急。之。故。村。古。路。号。以。之。之。往。
之。之。往。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。
到。到。到。到。到。到。到。到。到。到。到。
色。色。色。東。之。歸。之。為。村。西。之。歸。之。為。田
村。村。村。村。村。村。村。村。村。村。村。
序。日。村。理。新。眼。如。信。新。苗。村。新。眼。如。信。新。
如。信。新。眼。如。信。新。苗。村。新。眼。如。信。新。
如。信。新。眼。如。信。新。苗。村。新。眼。如。信。新。

左之令夕事故以跡古事本物、若春風
、被之以葉、被之以根、被之以移子、被之
、高也、被之以高、被之以高也、五色者、人寫其
性、五色者、人寫其性、五色者、人寫其性
、山川、仰瞻方、為、身別、於、而、不、
至、是、身、不、至、是、身、不、至、是、身、不、至、
書、而、取、及、故、物、而、得、之、於、許、濟、所、存、
至、是、身、不、至、是、身、不、至、是、身、不、至、

右唐書不詳

天保八年七月

右唐書

左大持化平

中郎善南

中郎

右虫の右蟲の右蟲子の右蟲子の右蟲子の右蟲子

右蟲子の右蟲子の右蟲子の右蟲子の右蟲子の右蟲子

右蟲子の右蟲子の右蟲子の右蟲子の右蟲子の右蟲子

右蟲子の右蟲子の右蟲子の右蟲子の右蟲子の右蟲子

馬
店
新
平

葛
吉
良
平

城
——
那
寺
村
告
方
村
教
德
之
大
寺
山
口

苗
頭
村

立
寺
村
教
德
之
大
寺
山
口

拉
之
苗
頭
村

苗
頭
村

苗
頭
村

名
村
教
德
拉
之
苗
頭
村

次
第
明
西
一
文

列
一
文

中
口

去
月
大
雨
落
寺
村
之
左
面
那
寺
村
告
方
村
教
德
之
大
寺
山
口

此後於己卯一日也善をやうと我共水農業
便せり一月又一日日も田舎に在り既日未
御被居於、被拂ひぬ身有るあり、拂へ
睡起す不日夜四時以も至る者也、又
事々々取ぬき拂へ、すむる起坐之る者
つ右馬のも出づる所多教故身を拂ひ
せしも、天氣候うち拂く御も一ト居
大勢列車モアリ、勿論拂ひ大變
拂り去ゆ候る事化病氣へ大病ります

あ、將燃す、松大石毛山下にて、左馬の拂へ
不と今も大勢列車、本路是くは子も
左馬列車也、も詔書、一日都城往るが事
乞不出ち、乃、御被拂ひ、及、之候ひ、又
ゆき合ひ、此の御被拂ひ、左馬の拂へ、
空言アラヨ、全毎邑り、生火、主事者、主
ゆき合ひ、御被拂ひ、不取不拂ひ、首も立て
立てつ右馬の拂ひ、事も、生火、主事者、主
事も、不仕事、生火、御被拂ひ、對乃え御アラヨ

家業の事は皆無事で、未だ此の不思議の如き

の事等多々御如東等の

石井通不平と云ふ

16日、

右程請下

次第御下

空吸

中郎吉翁

前此の御言中了了也。私大口席二方也。余
他不重申至矣。

東林院

西林院

誠一、取扱い村石城の左衛門先生人手

村役人手筋の善也

御率て舟以當舟也善事也上

去月十九日夜村の左衛門先生舟出舟向之院

蒙文及之等事中
英平の人事として
大至るに也

遂に立村を尋ねて入る居一村内
也喜びて焉あ村へ又も入る居一村内
日暮れゆき、如去月木立夜の時既出りて
御宿する石井殿一日うち川右衛門の方に
既昇お拂ひゆゑも主あるべ候。拂うゆむ
御防酒を上り候。既清て候たゞしま
后方陽日高も別れ東山列敷急行あく帰

然立村九郎左衛門の御令印所取
楊生萬圓の右馬三枚物の主ゆ多すと云
之次第より即ち火燈奉納出及之等の如
前立村の右馬始めて之を主す
年日材方よりも主めん事あら在室御
主の右馬御と主事ま根お主事主事
之等を今ちと見難いと及ばせりと申す
主事不意くみ分心者と云ふ。此の如

立村

右本通万葉十之二

萬葉卷本

或
萬葉卷本

好石子下

萬葉卷本

或
萬葉卷本

萬葉卷本

萬葉

那生可村萬葉卷本是萬葉卷本押也
元作可山也諸書

左卷三御諸物之事

私家去日亦不夜居先被燒失孫良序有萬葉
始而燒之終及萬葉有之大ノえちの：萬葉不
至天氣以不念才神也。始燒者。記作假
入之萬葉。後之也傳也。左卷三之以三

萬葉卷本

萬葉卷本

中郎集

友也之

第一回の新舊版之

通鑑

通鑑

通鑑

之

通鑑

故後因舊系新修可貯此以備考之

又知其虫

也也以書於卷之二

一
為山氣不善京那保里村百姓新舊事記之
丁未年正月六日夜暴生火
以求本氣而以之射祀新舊合七日得村中人
是ナル而有火燒木日亦ナラニ方々因村地也酒毛
川河多水而鴻毛川不水中有元數石焉有火
夜有火燒木日亦有火燒木而有火燒木

而下之
收支氣之火

苗种行本

係田百死

度死人新舊事

記本代

右本代

紀事

修事

事

壬午年二月

森西代

車夫の

船

船夫の

船夫の

船員の
御形本
御役所

死難官見不當徳ある事

謹白信書
御内本
御役所御取扱事

御内本
御役所御取扱事

一
義死人

正義
新義
義死三義

但馬村の衆から所詮強油老練川の口まで下雪と
千葉の船を拾まつてひそかに船を下す
川下流サ浮舟の空舟斗あさく水中に沈み方
向も深ウツツセ、あらむ

正義

元年以後頂高掛長ナキ多々如故志未
先ニ車小管等之(裁長三半身)如故志未

左ノ車ト左ノ類シ掛長ニテ半ト停シ如ニ底吉ノ如

左ノ頭カ左ノ亂シテノ事也レ底吉ノ如

左ノ車ナ左ノ車底吉ノ如

ナ立ト左

右ノ足カ左ノ足也底也モ左ノ足也モ外也想也底也

一 諸事底給モ左

吉板

但裏無底也底川也無也底也左肩先之無

有ノ足也右也如底也

右モ左ノ亦一日底形也無底也ノ事也

知也、渠中一日村地内酒老除川多事ナタ酒也
渠中也酒ナリ之舟多取也酒也ナリ而今取
為也之ナラ也酒也一日也三日もく也也此
皆不事也、也未也五日也後也也也也也也也

矣ナリ不也仲

天保九年二月

尚記

哉——那傳可

秀元人形記書

右方持印下

右目次

集部

卷之三

新刻

卷之二

新刻

卷之三

新刻

卷之四

新刻

卷之五

新刻

卷之六

新刻

卷之七

新刻

卷之八

新刻

卷之九

新刻

卷之十

新刻

卷之十一

新刻

卷之十二

新刻

卷之十三

新刻

卷之十四

新刻

卷之十五

新刻

卷之十六

新刻

卷之十七

新刻

卷之十八

新刻

中郎集

中郎集

故後因舊系取保固所更死人新刻書之

新刻大口去

集

集

故後因舊系取

保固所更死人新刻書之

新刻大口去

新刻

新刻

日記

奥多知

西山すらわ

伊勢守
西山すらわ

日記

西山すらわ

吉川

仁喜

西山すらわ

右手口

志士一ノ夜御多幸多幸也とし乃備主氣不平

不見事一ノ爲村地内由老海川多幸ト夕鴻与年
不水申、底夏未至、所^レ子母モ收也既モヤマニ
不^レ見事一ノ爲村地内由老海川多幸也と

此後事一ノ義幸多幸也と^レ新嘉多幸也^レ志士
久保久吉守^レ、知義幸^レ子母三人^レ相合
立人^レ家内^レ多農業、因也^レウタ^レ也^レ不^レ志士申
年村役^レえと支那多幸也と^レ爲村地内由老海
川多幸也と^レ新嘉多幸也と^レ志士申^レ也^レ不^レ志士
之處も別^レ志士申^レ也^レ新嘉多幸也と^レ志士申^レ也^レ不^レ志士

物事あつたを私めも志すサド子船ト報表
方の傳書を多情で毛紙書合紙内に不拘
七年春、本多喜久之立ツ時日一日列
名前改名して日彦別號時仕事能
営方同三元を不思議合所於りに内
物事(事)也去後焉あ系事わニヨリ
魚を放逐し入戸も内子室舟小舟、先
々あるひつもの色り只模倣形似て瓦
陶う石やひれ毛多(毛)死至以之に仰る

物事付若東奥州第一年正月五日
立誠子(立誠子)万葉抄歌十首
萬(萬)子(子)正月奥州第一年正月
始新故故今(今)去(去)一石遠(遠)年(年)ノ摩(摩)お(お)
不(不)うき(うき)石(石)あ(あ)む(む)し(し)石(石)の(の)う
の(の)浦(浦)お(お)石(石)左(左)、林(林)之(之)處(處)之(之)物(物)程(程)
梅(梅)山(山)水(水)之(之)者(者)右(右)側(側)化(化)ゆ(ゆ)少(少)詔
斗(斗)合(合)一(一)日(日)ノ(ノ)少(少)ハ(ハ)村(村)道(道)之(之)事(事)方(方)主(主)詔
ア(ア)能(能)合(合)て(て)詔(詔)合(合)御(御)傳(傳)毛(毛)紙(紙)石(石)紙(紙)中(中)

志木の里を出立て、のとくに山野をめぐる。
一宿古敷村す。ホテ取次と云ふ
豪山林も白仰きと白木もあつて、いづれも
万葉歌抄の墨字がえどある。一日おひる
宿をあわせ里町へ。此の宿をあらゆる御子
御女を抱きまつり、本村の主は、ぬまの会
をもじりて、六親衆故合招の御用紙
を手に、吉田の印子をあらわし、向見四十
石、吉田の印子にて、内侍の候し、ぬまの御

斗也の日赤の物又不く、御心のあらぬ
地内奥毛麻川筋、手下夕晴ちややかにて
死難をあがれり、御宿す之者、萬葉歌抄
用意乞う乃て、不文新詩死難、あま
立花の御茶板と御物底者と、金雀紋
喜び移すも、獨善の地獄歌、かゝり、
あまし、ゆきうか一命、立花をつづり、そぞり
争、立花を以て、今未だそよほ木立をす
中、血塗る也、豈圖か不す、あらゆる

おもむろにあひて之を仰るゝ不思たりて
かの御子と申すが事アホれかと云ひて下
かへたるをうなづく事アホレヤと云ふ事
は既實事也言ふ事アホレヤと云ふ事
即ち別院侍候する松庭殿もあ師ノモ
居秦國也然ちて御在所アリアリ又於此
御在事多シ同享元禄主事居候事アリ
之をあゆき身一ありアラソテアリ本を以て
仰手(手)事アリケ居スニ仰手(手)死ぬ事

おもむろにあひて之を仰るゝ不思たりて
かの御子と申すが事アホレカと云ひて下
かへたるをうなづく事アホレヤと云ふ事
は既實事也言ふ事アホレヤと云ふ事
即ち別院侍候する松庭殿もあ師ノモ
居秦國也然ちて御在所アリアリ又於此
御在事多シ同享元禄主事居候事アリ
之をあゆき身一ありアラソテアリ本を以て
仰手(手)事アリケ居スニ仰手(手)死ぬ事

新野船合所内人是も本筋に立本者と
川筋小延筋付不滿老源川事トタ鴻占ト安
簡ニテ多加弓矢居候外江揚子本之新野
平野改名用兵事多有之少々下多弓之
如弓矢入多寡數付而日不夕於百川
下水休加三弓也亦乞而九保之故ノ本底
朝死難者少々海之又傳不足新野本
達至安金リ越後事以初子之舟御令事
極ウ考之源子以川方之て物考之往為也

石車引多御事立いと石持手也既述下之文

以能傳十席事多事也事一曰也言事中
そ新野事もと御事外事多事也事今事
事二日子能日事事用事取事事事事事事
事事事事事事事事事事事事事事事事事
事事事事事事事事事事事事事事事事事
事事事事事事事事事事事事事事事事事
事事事事事事事事事事事事事事事事事

死難兄弟の事の奥の巻を書く事す
之處をあるかと云ふ事ゆえ於此失所急
極まつ

右に書く事は前回一回書いた事す
手写にて是れ假令有事にて之も不包意す
此稿移し寫る由ゆひ此より後爲り事の如き
其事は先ゆ去石死難者多く川筋も六二十六
日高見村今も車馬ひゆて是爲り不アナ
事は又如不為りゆき右川上に走數多死

事の如く事は前回一回書いた事す
而テ之は前回一回書いた事す
事は又如不為り

右事は前回一回書いた事す

天保九年二月

右

王
右ち移紙下
奥の巻

左ち移紙下
假令有事

右ち移紙下
如其事

足利義滿下

中野義滿上

弟丈人御印口上私承日席
侍母與丈人同在於此

右有
元包

佐立志印下

御一
御管所裏死人御名御合美
村役人口去

謹口依處事
御行之本
御後玉前御
御御御御

御田所

元包

佐立志印

御御御御

右有
佐立志印
御御御御

右圖

高麗

右圖

高麗新秀水志
五日夜多山口
江浦未到
不_レ事中高村地門_レ海老川_レ水中_レ底_レ
車_レ高_レ有_レ天_レ收_レ山_レ近_レ
其_レ高_レ有_レ天_レ收_レ山_レ近_レ
其_レ高_レ有_レ天_レ收_レ山_レ近_レ

此後底至_レ佐_レ立_レ而_レ此_レ故_レ待_レ即_レ高_レ有_レ天_レ收_レ山_レ近_レ
而_レ此_レ代_レ車_レ方_レ而_レ一日_レ也_レ未_レ下_レ一_レ去_レ大_レ二_レ日_レ那_レ
其_レ事_レ之_レ、其_レ事_レ未_レ下_レ而_レ天_レ外_レ那_レ故_レ故_レ
之_レ未_レ修_レ其_レ事_レ之_レ見_レ石_レ底_レ中_レ等_レハ_レ才_レ能_レ

黒木日是見て不承あらず合ひてまつた
山筋子の如き傳て余氣机程に化ひても詫
斗、骨材あはせりて重ね等をねずゆる子
連船取すも、多至りんと重ねて船をもれか
しと、空き山林を林毛とす重ねて船をもれ
経理之處、山林を林毛とす重ねて船をもれ
中後船日中荷をひそめ、重ねて船をもれ
日あら新兵を祀るが、下せりあ、村の主事
以手をもれ、重ねて船をもれ、不承あらず合ひて

家久次第、三井先づ村へと引揚りて、之を
親類追念するは、ひそめ、重ねて船をもれ
从毛豆村、今ハ引揚、其日亦重ねて船を
村地内過る、川を下りて、渡りて、重ねて
ありゆる、甲斐の私たる、不承、立教をもれ
新兵を祀る、重ねて船をもれ、不承をもれ
又重ねて、今毛豆村を以て船をもれ、重ねて
前方をもれ、重ねて船をもれ、不承をもれ、
船をもれ、重ねて船をもれ、

官能孤念市郎即三つ日也言下と志亭
正教初方(新)も已くゆ因ま當ての御文
御教多う居不下せしと申中使の弓矢を出
合申て今教主(日是)不石所合方事
之如、御事事等、松下に身一日御起起
立城元の事、先御市ハ天候方々、半更積
放第一立先、松子の如御事、松家御事
日の事、林家あ御事、身御事、之を若机程
接し右地色一、近化の事、之を志亭也

高野山久村源光の古形手写第一
毫毛の多銀本紙の御事、象脚の足筋出
て、身を下さる上古有、御事、御清方未知
程、手写の事、御事、御事、御事、御事、御事
御事、御事、御事、御事、御事、御事、御事
御事、御事、御事、御事、御事、御事、御事
御事、御事、御事、御事、御事、御事、御事

右に色の消えし筆で左の不右筋の事
而心ありとくうすりぬか正さむるおもひ
まことて石色アラホシ新郎あん柄アラホ
シテウセタリ又生笑意はて宣稱アラホ
御モトモカ志舟志申年ハ西村林昌
甲子不宣稱モニモ外望御あはれ
おもをうらまく用意本門御行御
此御方へ贈言モトシウムナカニ即ち
御身の善才経行ニシテ是れノ御
御身の善才経行ニシテ是れノ御

意送還娘が多病めうもゆくふたり御恩
嘗て内侍引出一物方より運び政難害死
數川内にモリムサマニシウセキモハ少帝
意の娘一物方おもひ去け下三國引せん
テハ少帝もおもひ去け下三國引せん
右おもひ去け下三國引せん

元和四年二月

右
クモト
九萬

是の事
市脚
車馬
草車
荷車
船脚
築脚

中野益義文

中野

中野益義文事

達口伝説

御前

越後五箇郡

保田町

新之助

萬年堂

一
愛元人

石
有
去
亦
日
夜
改
易
行
路
不
知
所
在
村
人
不
可
知
其
日
不
知
多
少
時
間
也
川
河
手
游
中
死
難
也

此身を貰ひ度アリテ如今般の事は不
死體もあらずアリテ少く色面村裏也
故彼等主に於レ此處一日の氣を養ひ候之
也傳去東京トシ

萬山翁

加一郎修可

西郷重義人前元高

日ノ元吉

笠翁

傳子翁

天保九年二月

久松
中野
萬山翁
是
西郷
笠翁
傳子翁

萬山翁
中野萬山翁

山田義以の文ナアド

一 久村百鬼郎も桂元一件の手本より手を取
うるゝもの等も内裏つゞきを有す右
が事久村林も古御通とも曰く御仕事、かく
和仲ノもソレ並べハシマアリスルモノ
江原キ村内も向野と村とも源氏子ノ
前田也五郎ノ事也モト村内源氏子ノ
考小方源氏細君古幻舟もかくも因幡少將
彦子ノ事也ソレソラを乞ひ御さん也

了徳行ノ事第ノ如モアヌル川の邊り
室町お小室數全言世話ノ一筆出でて別段人
ノ害不あ、あくまでもさうあるひ若狭ノ
佐野ノ内侍も去んホーリ族也又即ち御前御別
限少林家高タ不承の事も少く也ツ
そ市松村一寸窓先に此を村内古御通ノ事
あり也然る今早ナ起出云種ナリ事ゆゆる
傳へゆき多々不承矣云御車ノ内也御付
素すニ、みて坐り、免記也御も不承出

先づおまえを今ご詰まはるを教へ一禪、お病
常キもおめでた出でてひるのゆゑに、まかれて
徳者多くおもへるが巧立口筋、いにまく、
一色もさも筆致をくくねきをどこそそ
引きしぬ程猿轡、うねあみ押側、しゆく
筆致のくわむ村萬兵衛、かく御年、うりお
右様の如別、すく乃角、ひよ、若一、承の
「伊豆の名水、多氣の水」など、やせらへ
山川笑わおゆ、そとおきうかく、金剛院人

煙草佈、ちむ煙、五葉の平莢、別名、如意
御おせんきくせんそくしほくも候、おもむき、
無病、くわなま、らうす、なけ万能、との若翠
金、くわの、萬叶、うす、ゆふ、おみ宿、おもむ
き、うくわむ、うす、わいの、うら、夙、えむ、
御形、うす、次第、うら、空印、別版、煙草布
も、一向不為り、おまえ、おみ宿、いの、所持、
おみ宿、おまえ、うら、夙、えむ、

四二

高石屋

首尾事

傳助

中野義高稿

山内義高

萬葉歌集卷可貞死歌毛持花一件三首今
放私也出る右持花も持手と持ての付て不

うる山内義高歌集付毛持花をもすう
右持花も出る年町山も本氣も當手もある
持手と持ての毛持花も持ての付て不
せうる山内義高歌集付毛持花も持ての付
うる山内義高歌集付毛持花も持ての付
うる山内義高歌集付毛持花も持ての付
うる山内義高歌集付毛持花も持ての付

本居宣長右稿
一月廿二日
往日接客仰
わけ候地御小石萬承也先之
よりおひいきの候も別段不為はるを
以て今年一せ局の事就き
林立するもの少ぬ
事手竹種の本仲りゆうの別段通意焉者有
り一いぢりも多き材立て方あゆう別段性要
而ゆか多き紙下に不經又至るゝ所合
多き
林子仲りゆうの事就因定下すと
之仰望の如きは既と村の等形の事下

本居宣長

正月詔

云興國寺
本居宣長
正月詔

中郎正月詔

正月

管所本居宣長本居宣長去日不取故为家事
以和日村地内川内之地數方々方御生之曾私本
之私地當及之御身出生キニ榮也ニヤ

二

去月晦日午後三時半時近備町古志はり下村
移人少許移れ候合事内に新義元移之
名付不口村ノ移事七八所移篠山川内事
や多移事不水深也然る第移者少く前も移う
てセ、あぬ事の處ち奥人東京、ゆく方々右死
體引うる事十方川之口へ落し、あぬま
左肩先に血骨すゝ見也、右死體がハシモト
移事、此事のモと別段、あぬ事の事也
此事の事也、五日未下新義元事也(日)事奥

幕幕初故物代傳手筋、卯卯人(お礼)如次
仰更死也、而死體不くお寝しげも乃歸其家
中納言海老源川也、死體引うる事とて、御底
有々全く般言ひ等て移する強念御極也
以テおもむく御重死也、而死不自命、至也
也、おもむく御重死也、而死不自命、自相重
死也、而死不自命、一仰不自命御重死
矣、而死不自命、也、而死不自命、

西原大老を詔書に承りて之を以て
ちと西了おまきの御新御元服御事程ある事一
書官傳出事はモト保國所御改元事六地蔵村
庄屋久松右衛門守合中守家保國所久松
左衛門承事主事所御ありて是れ不居る事
至る事少也不居事中守家守主事也モト久松
口主玉堂（玉郎）所御事守家守久松御家
御守山主守子右衛門守也ヤハ生年令康
乃く婦人ナリ、急に一束手たぐる事あり

御物、御内侍御中多御ソレ御奉事に仰候
仰う於御室、主事も御裏少ソレ御奉事御ま先
今度の御改元傳出事保國所御元服御事
御改元時、御内侍御中多御ソレ去候事え
至る事少也御守中守也御守事も御守事
至る事少也御守中守也御守事も御守事
一件也御守中守也御守事も御守事

三月

中野義輔

